

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-10-06

少進聞書

開書

牛尾 一嘴 号々知 安道 報也九

八六

能研
21



彰都婆小町

能楽研究所

一 前ハ小神又キカケテ 氷衣履サス杖ツク
ヌリ笠キル石老女 ヒヤキモヨ

一 道エキノ諷コテ 笠ヌキテ 丸ノキニ持シヤウキ
腰ヲカクルウシロヲ人ノ先程ノケテ 長クハ
ヨシ杖ヲトニツク 趣化シテノケハマト云時ツレ
ウシロヨリ 舞リテ 本支ノ方ヘ行

ムケ敷ノ僧ノケウケマト云扱ノヒノ時 石モ
身モ老ノ方ヘソムク

社モ袖モアヲハコソト云時 袖ヲソム 今ハ路頭ニ
サツラヒト云時 又扱ノ心付テト云時
扱ヲ、リノ方ヘクツク 聲アリケシヲラハ云時

かぢり興　ナラ物クヘナフトニ時益ツアツヌケテ
 僧ニ向テ抱ツル　日ハ行時ソク奮トニ時西ツミル
 開キハアリトト見テヤイテクニトニ時立テ
 大鼓打ノウシス行リテ抱ツルニ　注凡所令渡ス
ガニヤウエノ袴カイトツテトニ時　ヤケ　袖袖ツ
 ウチカツヒテトニ時左ノ袖打テテ
 アラ若ル日目ミヤトニ時胸ニ扇ヲ當リツクハイモ
 スニ　カウニ抱ヒハクハスニヤトニ時扇ニテ脇ツ
 サス　コシツケモトニ時ニ　イサコシ塔トカマテ
 トニ時左ノニサツツチテ扇ツ上ヨリツロシクニ
 一　向首ノ中　佛解ニチヤウノ辛社場ニテハ
 ナキカトニ時ソコニテヤウチニ左ノ足クルヨシ右足トハ
 禪風早仕ハニクニ仕舞ト筑道ト事ニハ

女郎花

一　前ノお返振ノ受　　ニ　白氷夜　玉クヌキ不奉
 扇持而ニ有モ不若小付ハヨシ
 一　宇ノノ人嘉新ヲオラヘトニ時遠ニ久クヨシ
 津説下ツフリニトニ時ニ名ソ合者キスル脇モ
 ツカニクニヨシ　津松ノハタツテトニ時ヨリ脇ノ袖ツ
 川ニアニク仕舞ニアリ　赤オクソ是六トニ時
 合者キシラニ座スニサラハ津説トトニ時モノノミ
 兵ハ　コナクハ入トニ時ニヤケル
 男塚女塚有ニテシニニ極ノ仕舞ノ時言説女塚ノ
 下ニニニニニ　心持事ニト　文行月トニ時

たゞクハウ 總石ニ ツルキノ板ノト高ク
上ヨリツヒシク公ニト主ト 扇ヲ帯ヒウツクニ
折リテ上ヨリ廻ル 花ノエシトニ時ヲ廻ウカ
行(トニ時合テシテ入)

舟橋

一始^前水衣大口 扇持 女帯也

一初^前夕ノ次ノ小颯令 女ト居替

一^前二^前生来ノ道ツクリ行ノ小颯ノ中スコ
舞ナリ 語リテ聞世中サントニ時ツク

一^前寒ノ空ニモトニ時ニナリク夕暮ノ元モト
ニ時ニ見テ入

一^前後^前面アヤカシ大口ハツヒ一重ノモヨシ大ノ扇

一^前女^前帯^前也^前 柱ツ 裁クトニ時扇ニテ頭ツ振
テ廻ル 是ノ^前ニ時扇ヲ扇ニテサス

ケシカニシヤト云時 脇ヲミル 多クヤト云付
合意ナシテ 脇ヲ見ル コトヤ 弟ヤト云ノコトス
ト云 女脇ノ上ニ住ムナリ 人 氣ハツシカト
云時 肩ニテナス 此列國ハナスヨ日月ハカサスヨ
クノモニヤト云時 肩ニテニツアツク 耳ニ
ソシトトミ、ヘシカト云 後ノヒニ 枕アリヘクツケ
行アヒノ向チカクト云時 ノロクトハヤリヨリ
出ル 此トアリキリヤ 此トアリキリヤ
シキテト云時 ナクニサツ折リトウト兵
粗公ノ鬼ト成テ云 此ノ時 肩ヲ指 打杖ヲ
松柱ニクテラシト云 兩杖シ 而ノキニテ ツキテ

身ヲスクニ立クルヨシ 惡龍ノ餌食ニカリ
ト云時 足ヲ面白ク踏 鬼鬼ト成テト云時
打杖ヲアケテ イカニ心ヲカス 此ハツカシ 我ト身ヲ
攻ト云時 ヒサツク 行者ノ法味ト云 肩ヲ
振ソシヨリ 廻リテ 松アリノ方ヘ行ソシヨリ
立降リテ ウカス身トソト云時 廻リテ 返ノ
時 肩ヲツカヒテ入

忠則

一 前白巻 紫玉クヌキ巻入 本枝ヲ持

扇指

二人がり丸

一 為ツテニテ 降ラントモ時本ノ枝ヲワキニテ
方ニツクハヒテ 置合者スルマアリテ左ニノク
此花ノ陰キトノ清者ノ体ニテトモ時ササニテ
ノ多クハカガホシ見テ云ヨシ 忠則ト申一
人ハトモ時ツクハシ 論議ノスニ足ニテ本タリ
タリトモ時脇ヲ見テクダモ花ノ陰ニテトモ時
トモ時ニテ及ノ告ヲ待テテトモ時脇ヲ見テ
花ノ陰ニヤトリ本ノ扇カニテ行ヤクニテ入

一 白面中持 袖ニ 浪縮モ不若 右ノ扇又ク大口

大口 頭常ノ浪縮ノ也 扇持 矢^{神ノ下ニテトモ時} 短冊ツル

一 小川お場 御身ハ沙田ニアリシ人ナレハトモ時

脇ヲミル ^{本鹿ノ御身} 中ニトモ時 左ノヒサシツク

須度ノ流風モトモ時 柵ヤリノ方ヲミテ

年ハ壽永トモ時 川カニトモ時 脇ノ方ヘムカヒ

身ヲヒラキ 家ニ行トモ時 脇ノ方ヘムカヒ

舟ニトリ 宗リテトモ時 宗は宗アリ海トモ時

ウカフ コニ働アリ ^{宗ノ時トモ時} 駒ノ宗 宗ヲ川カヘハト

モ時 左ノ川カヘハトモ時 ムストクムトモ時

持ッ人短冊ヲ矢ノウヘニツキ 行書テト

去時讀ヤウニヒトソロソロササ一(行)花ヤ

今表ノアハヒナラヒト去時 疾光ノ名ノ

たノ根ヨリソヒニ 續ナリサテハ短ヒト寄

矢ヲたしねテ友振アケ嵐ノ音ニト去時

たノ矢ヲ静ニ振 新井ノ振ニスルニハサケニ振 ソノニ、たノ四リテ

たノヒサヲ実 薩摩 此ノ矢ニテ矢ト前ト一ニサテ ノオニテ矢ソノ実、テツクカウロミ

矢ヲヤカテ捨ルたノ一ニテ一啼 汗身ハ

花ノトク付 雨ニテ 脇ヲサス 今ハウタカヒト

去時立奉ルハ足濡ニ踏ミ 花ハ根ト去付

扇ニテたノ方花ノ方(ヤリ)根ニカント去時

たノ川ニテたノヒサヲツキソノ、たノ四リ

脇ハ脇ヲアサミ本位ヲ旗ノト去時仕舞

柱ノ市ノ行 名ニテ入クハコシ 宿トセハト去時 花ノ方ヲミ言ヒ

此ノ文字ニテ 此ノ文字ニテ 一踏ルノ足ハたノ人ハた也 今ハ今ハ今ハ

たノ仕舞ハ足今能ハ人不能ハ能

一書限也今ハ表代ハ仕舞ハ仕舞

ト也下移ルハ能ハ能ハ能ハ能

二年

藤戸

一作而若女

賤名

白衣水衣玉夕子

不揚麻持

一様アリアリキナカラ 諷おス 昔ノナ表ニ也

カシト云時啼 御前ニ泰テイルト云耐ツク

ハウ 切替ノ果ニ啼 ナラソノ切替時ノ事也

コハソモ何ノ酬ヤト云時啼 我子ト同ニ道ニ

ト云耐腸ヲ恨テ云人目モ不知ト云時ニテ

歌子カ(在シ)ト云耐腸 在ノ中シカケテ

スルウツノナキ 多様ト云耐啼

一 ぼ黒カシラ 半巻布 水衣玉タヌキ揚

右 杖持 扇サス 面世男 雲

一 一 初ノハカ イロニモヨク トアヒト 仕衆女
ノ如クアハル 浮洲ノトニ付 西向ツミ 我ヲ
ツシテトニ付 ソロクトニ付 行 水ノ如ク
ナルツルキヲスイテトニ付 竿ニテ仕衆ヲ
スル 胸ノアクリヲ指トシトニ付 胸ノ
カシアツルサニトツルハトニ付 足ヲ踏ハ
ソクマ 海ニヲシ入ラシテトニ付 竿ヲ角ハ
アケテニテフヤウニシテモツモナリ 縁ニ四リ

依ニトウト長 折節 門垣ニトニ付ノ

此ニ立奉ル 浴又沈ニヌトニ付 一ツ四リテ

炭ノハサニ流シヤツリトニ付 竿ニスカリ

クテノトス ウラニシナサント 思ヒシニト

ニ時 竿ヲ揚テ スコイカニ 仕衆シスル

ミナシ 梓トニ付 左ノキヲ竿ハカケル キツクサレ サニ

ハニテテ 行程ニトニ付 ハカニニテテ 時 左ノキヲサヒク 仕衆

スル 生死ノ海ヲ渡リトニ付 扇ヲスル

仕衆トニ付 面ヲ指 成俣ノ身トトニ付

脇ヲ并ニテ入也

用寺小町

一作物初。おん奉入内入リ靴

一奉入おん白衣 面ハ老女ニ死

髪髪 府札

一作物 著者 履を付し 櫃ハアリ 長持

脇ノトヨリニ 纏ヒヨリテ 此ニ短母ノツク

一 杖 作物ノ内ニモ 置ヌ 又ハ作物ニモ

カケテ一モツク

一 脇 僧三人 天四人 女一人 女若者 四

人ノおん 髪 髪 髪 小袖 ヲナリ

毛 髪 髪 ヲサク

一 泣クツトリ 指^さノ^さ後^のニ^ん

一 涙^{なみだ}ノ^の後^のニ^ん 涙^{なみだ}ノ^の後^のニ^ん

一 又^{また}思^{おも}ハ^ル、カ^かサ^シサ^ヨト^クニ^ん 呼^よビ

一 イト、シク^{しく}老^{らう}ノ^の身^みノ^のヨ^り行^ゆ 果^はト^ク

一 只^{ただ}く^くワ^わシ^しリ^りト^トセ^セト^ト云^い時^{とき} 脇^{わき}直^{ただ}ノ

一 ソハ^はヨ^り辛^{から}ツ^ツト^トハ^ハヤ^やシ^しス^スハ^ハヤ^やノ^の欠^け。

一 今^{いま}直^{ただ}方^{はた}ハ^ハ思^{おも}ハ^ルノ^の身^みノ^のヨ^り 破^{やぶ}ノ^の身^みノ^のヨ^り

一 一^いハ^ハ痛^{いた}ム^ムノ^の身^みノ^のヨ^り 又^{また}ノ^の身^みノ^のヨ^り

一 物^{もの}子^こ妻^{つま}ハ^ハ思^{おも}作^{つく} 肝^{かん}ノ^の身^みノ^のヨ^り

一 扇^{あふ}モ^も 靴^{くつ}モ^も 結^{むす}フ^フ 辛^{から}ト^トシ^しノ^の身^みノ^のヨ^り

一 名^なノ^の身^みノ^のヨ^り 聞^きク^クト^ト 為^なス^スト^ト 為^なス^スト^ト

一 足^{あし}ノ^の身^みノ^のヨ^り ト^ト 為^なス^スト^ト 為^なス^スト^ト

一 ツク^{つく}ハ^ハウ^ウハ^ハワ^ワコ^コ

一 ア^あサ^さミ^みモ^もナ^なラ^らハ^ハト^ト 為^なス^スト^ト 為^なス^スト^ト

一 イ^いト^トニ^ニ中^{ちゆう}ニ^ニ 帰^{かへ}ト^ト 時^{とき}ニ^ニ ア^あカ^かリ^りテ

一 打^うツ^ツト^トハ^ハ 作^{つく}物^{もの}ノ^の中^{ちゆう}ニ^ニ 時^{とき}ハ^ハソ^そハ^はヨ^り

一 取^とテ^テヤ^やハ^ハ 作^{つく}物^{もの}ニ^ニヨ^よシ^しカ^かケ^ケテ^テア^あル^る時^{とき}ハ

一 自^{みづか}身^みト^トハ^ハモ^もト^トノ^の身^みノ^のヨ^り 帰^{かへ}リ^りケ^ケリ

一 主^{しゆ}時^{とき} 兼^{かみ}ル^るヲ^ヲト^トテ^テ 任^{にん}命^{めい}ノ^の身^みノ^のヨ^り

任トムハ
又葦屋ノ内ニテ仕るモ
アリ

結

一面に有 水衣玉クヌキアケ腰装

桶撥一聲 桶は小鼓ニテ 桶

オロシニテ柱ノ方ニ直ニテ 桶ノ

上面ノ方ニ直ニテ 桶ノ

上ニセテ直ニテ 桶ノ

桶ノ上ニセテ直ニテ 桶ノ

桶ノ上ニセテ直ニテ 桶ノ

桶ノ上ニセテ直ニテ 桶ノ

桶ノ上ニセテ直ニテ 桶ノ

桶ノ上ニセテ直ニテ 桶ノ

芭蕉

才女事 柝聲 日亦 四経
讀誦ノ神内ク多クト奇ツクハ
常ノツクニホヨリカ異ニ入
ク久身ソトヤラシト奇 賜シテ
之ニウカヨクニ入
ハ法胡古ノ又袖シテ入
キリテテ 女言シ如ク仕舞アリ
狂ハ侍者之帳内ナリコム事アリ
ハ不細ク 習トキ

班女

一 狂者者 喜袍袴 一 妙也
手ハ 舞所ノ中ニ入テ 班女ト
呼出ス

一 班女 白衣 扇 白雲 衣

一 班女ノウキマテ 侍者ノウキマテ 宣ヤリ
云 其ノ身ハ法胡カニツク
一 後 白雲 衣 扇

一 一 班女ノウキマテ 侍者ノウキマテ

夕暮のころのこゝろにゆが
ま付更々元とくしと女

神や仏の懐てと云ふ下りの

と付好しく云ふ色入る昔年

海に毎朝しと云ふ泣き顔おし

人さるにくと云ふやうとて

働く 金や礼はしと云ふ

仕はれしと云ふ。衣のあは

かりりうしと云ふとらた

けりある。いとちなるの世

と云ふと云付樹の枝と云ふ けりあり

御上の心え 伝はるる

この世のふれと云付 けりあり

月と女 常氣あり 又瑞きと女あり

はかりあり いあや文と云ふのこゝろ

思ふの心伝はるる

桐の心 けりありと云付 けりあり

あの手と云ふと云付 けりあり

夜と云ふと云付 けりあり

仕はれしと云付 けりあり

一 斎序 けりあり











